

山友会 白書

2016

特定非営利活動法人 山友会

2016 年度活動報告「山友会白書」



目次

P4
代表挨拶

P5
理事長挨拶

P6
【特集】
長期路上生活者
支援事業

P8
【活動報告】
クリニック

P10
【活動報告】
相談室

P12
【活動報告】
炊き出し・
アウトリーチ

P14
【活動報告】
食堂



P16
【活動報告】
クリニック

P18
【活動報告】
居場所・
生きがづくり
プロジェクト

P20
【活動報告】
山谷・アート・
プロジェクト

P22
会計報告

P26
【特集】
山谷スタディツアー

P28
イベント・講演等報告
P29
メディア掲載情報

P30
ご支援のお願い



代表挨拶

代表 ルボ・ジャン



1944年生まれ。ケベック宣教師会所属。1972年に日本に派遣される。1984年より山友会の活動に参加。
1989年に山友会 代表に就任。

今日もまた、山友会には多くの路上生活を送る人たちが集まっています。

昼には、路上生活を送る人たちも一緒に、みんなでご飯を食べる。病気になった人が、山友会のクリニックで診察を受ける。病気の治療のために生活保護制度の利用が必要な人たちが相談員と相談しながら、役所で生活保護の申請を行う。そして、生活保護を受給できるようになったあとの宿泊先を一緒に探す。気が付けば、山友会事務所向かいの簡易宿所(ドヤ)は、宿泊者のうち3分の2以上は山友会が関わったことをきっかけにして宿泊した方々です。しかし、「路上生活をせずに済むようになったから、それでもうおしまい」ということではありません。むしろ、私たちが関わらなければならないことは、山ほど残ってい

ます。

役所から送られてきた書類に書かれていることが、初めて目にする内容でとまどう。病院で医師などから説明されたことがわからない。こうしたときに、誰に、どのように助けを求めてよいかわからない人も多いのです。

こうしたことから、路上生活を抜け出した後、新しい生活に慣れるまでに失敗をしてしまうこともあります。しかし、スタッフや仲間たちの支えがあるので、失敗したときにも一緒に考えることができます。すると、山友会の仲間として活動を手伝ってくれるようになる人もいます。

山友会は、仲間たちと一緒に新しい人生をスタートできる場所なのです。



理事長挨拶

理事長 大脇 甲哉



1955年生まれ。神奈川県労働者医療生活協同組合 港町診療所、ことぶき共同診療所医師(整形外科)。
2004年より山友会クリニックボランティア医師として活動に参加。
2009年に山友会 理事長に就任。

いつも山友会をご支援くださり、誠にありがとうございます。

山友会には毎日多くの「おじさん」たちが集まり、語らい合いながらお互いの孤独な人生を支えています。彼らは野宿生活を経て生活保護を受給しながら、3畳一間の「ドヤ(簡易宿所)」で暮らしている人が多いのですが、最近山谷のドヤには変化が見られます。

老朽化したドヤは取り壊され、その跡にマンションやビジネスホテルが建てられています。また、古いドヤを改装して、安価な外国人旅行者向けのホテルにしたところもあります。どちらにも共通するのは、生活保護の住宅扶助基準よりも高額な宿泊料金に設定されていることです。山谷のドヤの多くは、昭和40年から50年代に建てられ

た木造のものが多くことから、建物の耐用年数を超過しており、建て直しが必要なものも多いのです。

しかし、改築後ドヤ以外のものに変わっているところも見られることから、今後ドヤがなくなってしまうことも考えられます。一方で、生活保護受給者が入居出来る低家賃のアパートも台東区周辺には少なく、このままでは山谷に「おじさん達」の住む場所がなくなってしまうことを危惧しています。

山友会としても将来を見据えて、山谷の地で今後どのように活動するかを改めて考えるべき時期がきています。時代や地域の変化に伴う新しいニーズに対応できるように取り組んで参りますので、今後とも継続的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

長期路上生活者支援事業



山谷地域の玉姫公園というは会商店街で路上生活を送る人たちを主な対象として、医師・看護師と相談員による巡回相談、地域生活への移行に向けた支援、地域生活移行後の生活支援を行っています。

■活動内容

2016年4月から活動地域の東京都および台東区より受託した「長期路上生活者支援事業」を実施しています。この事業は、山谷地域の玉姫公園というは会商店街で路上生活を送る人たちを主な対象として、医師・看護師と相談員による巡回相談を月2回実施することと、地域生活への移行に向けた支援と、地域生活移行後の生活支援を行うという内容になっています。

2016年度の本事業の実施を通して、7名の方が地域生活に移行されました。また、巡回相談を通して、山友会クリニックに受診した方が34名、生活相談に至った方が27名おり、山友会と新たに関係を築くことのできた方が増えたことも大きな成果であると考えています。

2017年度も、台東区からの委託事業として本事業を継続して実施していくことになりました。対象者の方々が、路上生活からの脱却することも重要な課題ではありますが、路上生活から地域生活に移った後も、安心して暮らすことのできる環境や関係性をいかに豊かなものにできるかということも、私たちにとっては大切な目標です。そ

のためにも、事業を通して出会った一人ひとりの方々に本当に信頼してもらえるような関係性を、引き続き丁寧に築いてゆきたいと思っています。



巡回相談での声かけ

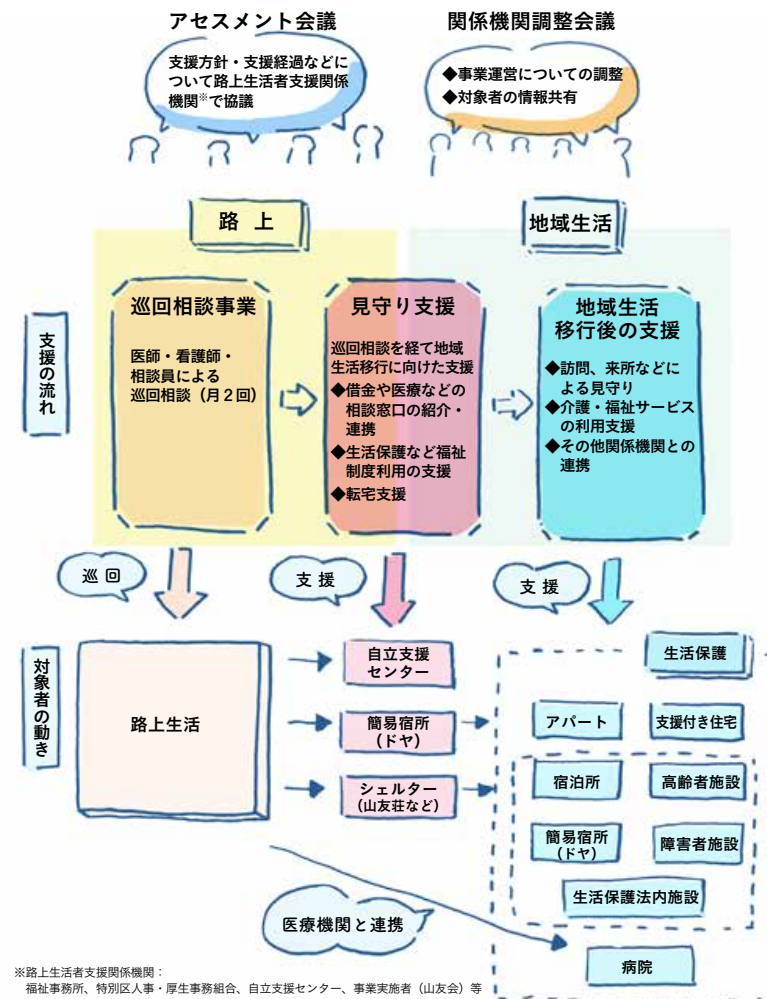


血圧をはかり、クリニックの受診につなげます

【2016年度 長期路上生活者支援事業実績】

1. 巡回回数	医師 24 回（精神科医 12 回、整形外科医 12 回） 看護師 24 回（月 2 回）、生活相談員 24 回（月 2 回）
2. 巡回相談実績	■延べ声掛け人数 682 人（巡回 1 回あたり声かけ人数 28 人） ■対象者数 160 人 ※姓名が確認できない対象者が重複して数えられている可能性あり うち、長期路上生活者 49 人 姓名または姓か名が把握できた人数 86 人 ■巡回時診察回数 173 回（巡回 1 回あたり診察回数 7 回）
3. 地域生活移行者	7 名 内訳 簡易宿所 5 名（うち 1 名失踪）、自立援助ホーム 1 名、入院中 1 名 ※2016 年 3 月 31 日付
4. 見守り支援実績	生活相談等に至った人数 43 名 うち、長期（1 年以上）路上生活者 35 名 ※支援内訳：生活相談 27 人、山友会クリニックでの無料診療 34 人

【長期路上生活支援事業の全体図】



※路上生活者支援関係機関：福祉事務所、特別区人事・厚生事務組合、自立支援センター、事業実施者（山友会）等

【活動報告】

クリニック



ボランティアの医療スタッフが、主に路上生活者の方など健康保険証を持たない方々に対して、無料診療を行っています。専門的な治療が必要な方は、相談員と連携して、治療を受ける上で必要な公的支援制度の利用について相談しています。

■活動内容

【普通の病院と異なること】

山友会クリニックが、いわゆる普通の病院や診療所と異なるのは、路上生活という大変な生活状況に配慮しながら診療にあたらないといけないということです。

いつ食事にありつけるかわからない。衛生的な環境で過ごせなかったり、栄養状態が悪くなったりすれば、病気になりやすいし、持病のある方は悪化してしまう。救急搬送されて入院できたとしても、退院後の生活状況が整っていなければ、さらに病気が悪化してしまう。そうしたことで考えて、患者さんたちの診療にあたらないといけない。例えば、毎食後に服用するお薬も1日3食食べられない方に、どのように服用していただくということまで考えなければならぬのです。



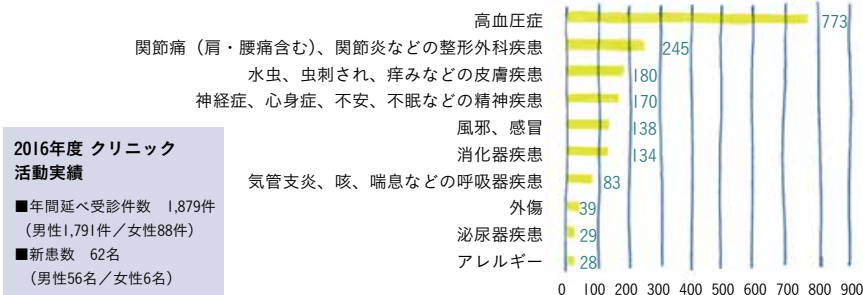
爪を切って清潔に

【「また来てくれる」ことの難しさ】

とある患者さんは、腰の痛みを訴えて受診されました。しかし、その他にも不整脈や高血圧などの症状がある方でした。腰の痛みも大変なことですが、不整脈や高血圧についての専門的な検査や治療も考えてみてはとお伝えするのですが、「今日はいいよ。薬まだあるし。」と前向きではない。様子。説得するも次第に怪訝な表情に変わっていく患者さん。心配ながらも無理に治療を押し付けるわけにもいかないので、なるべく細めに状態を確認できるように、ボランティア医師は短い日数で薬を処方して、また次の診察日に来てくれるようお願いしました。結局その後、その患者さんは現れることはなく、行方もわからないままになってしまいました。

症状のない病気よりも自覚する痛みを何とかしてほしい。薬をもらいに来るとよりも仕事の方が大事。聞かれない事情がある。こうした事情を汲みながら、クリニックのボランティア医師の皆さまは、熟練の技でさりげなく患者さんの体調や事情を聞いています。

【2016年度 山友会クリニック疾患件数（上位10位）】



【患者さんに「心から来てほしい」と

思えるクリニック】

2016年度から受託した「長期路上生活者支援事業」において実施されている巡回相談によって、新たにクリニックを受診されるようになった患者さんが増えてきました。なかには、巡回相談で何度も何度も声をかけ続けて、ようやくクリニックに来院してくれる患者さんもいます。そのせいか、クリニックでお顔を見ることができると、自然と「よく来てくれましたね！いらっしゃい。」という言葉が出てきます。患者さんたちに「心から来てほしい」と思えるということは、この活動ではとても大切なことだと常々感じています。



血圧が高い方が多く来院されます



鍼灸も行っています



ボランティアをいっしょに、医師・看護師のみなさん

【活動報告】

相談室



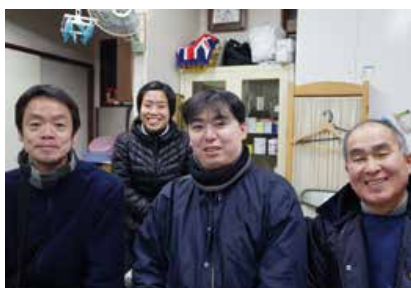
生活上の問題や健康上の問題に対しての相談支援、ホームレス状態にあった方が、アパートやドヤ（簡易宿所）等での地域生活に移られた後の地域生活サポート（見守り、関係機関との連絡調整、緊急時対応等）を行っています。来所される方々に対してお茶や日用品も提供しており、山友会を訪れる人々にとっての憩いの場にもなっています。

■活動内容

相談室の業務は、生活相談や医療相談といったその人の生命に関わる可能性のある相談を主な柱としています。さらに、山友会の食堂で昼食を食べてもらったり、食堂で作ったお弁当を渡したりすることで安否や生活状況を確認することが支援件数のうち多くを占めます。

生活相談や医療相談については、路上生活をしていた方が限界を感じて来所される事例や他団体から紹介されて相談に至った事例が多いです。生活保護の申請にあたって福祉事務所へ同行が必要な方は同行し、宿泊場所として簡易宿所を確保し、病気のある方については医療機関への同行も行っています。そのほか、住民票を移すための転入・転出手続きの補助をしたり、借金などの法的な問題を抱えている方にはホームレス総合相談ネットワークが月1回山友会事務所で実施している法律相談を利用して頂いたりして、相談者の抱える問題を解決するための支援を行っています。

相談員が様々な相談に対応しています。



相談室のスタッフ達

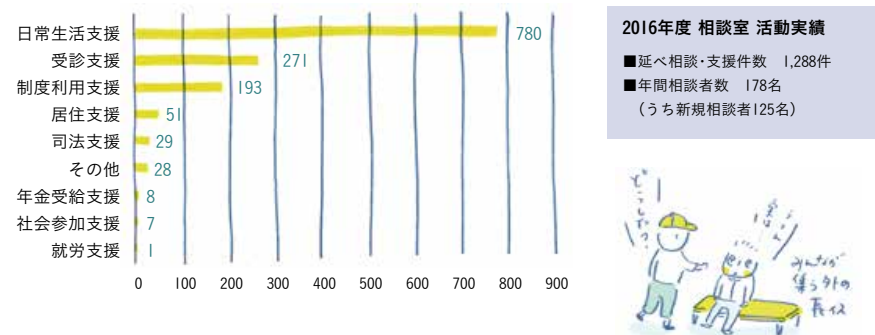


来所される方々への日用品の提供



相談を受け付けている様子

【2016年度 年間のべ相談・支援件数】



生活保護制度を利用できるようになってからも継続的に関わることで、体調を崩していないか、日々の生活での悩みがなかなどについて、支援の対象者の方たちが訴えてくるまで待つのではなく、定期的に訪問することなどによって、積極的にアプローチしていくことを心がけています。そうして対象者に寄り添っていくことで、相手が直面している問題や置かれている状況などを理解し、対象者自身が問題解決できるように支援をしています。

相談室で最も大切にしていることは、相談者からの話をしっかりと傾聴することです。特に、初めて相談に来られた方は不安や緊張があるので、ときには世間話をするなどして、少しでも緊張がほぐれるように配慮しています。普段から山友会に来所してくれている方とも、日常からなるべく多くの方々と会話を笑いあいながら過ごすように心掛けて、何かあった時には、相談してもらいやすい関係の構築をできるようにしています。

生活を立て直したいけれど、お金も住むところもないという個人ではどうしようもない問題を、私たち相談員だけではなく、時には行政機関や医療機関などの関係機関と協力しながら、少しでも多くの方の助けになれるよう努力していきたいと思います。



2階にある食堂に上がれない方にはお弁当を用意

【活動報告】

炊き出し・アウトリーチ



山友会では毎週水曜日と木曜日、隅田川河川敷で、食事を配給する炊き出しと、テント生活の方を訪問するアウトリーチを行っています。食事の提供だけでなく、生活相談や健康状態の確認なども行いながら、多くのボランティアの方々と共に、活動が続いています。

■活動内容

【水曜 炊き出し・アウトリーチ】

水曜日の炊き出し・アウトリーチは、主にフードバンク団体のセカンドハーベストジャパン様よりご提供頂いたパンや果物、そして五目ご飯などの食品を提供しています。最近では、若い方が炊き出しの列に並んで頂いている姿が目立ちます。目に見えにくい障害を抱えているなどの生きづらさがあり、住む家もなく路上をさまよっている方々です。そのような方を見かけたとき、病気の方には山友会クリニックの受診を勧めたり、相談が必要な方とは話をしたりして、一緒に良い方法を見つけていきます。

これからもボランティアの方々と一緒に活動を続けていきたいと思っています。皆さまの日頃のご支援に心より感謝申し上げます。

【ボランティアからのコメント】

逆境にもめげずに生きるおじさんたちの姿から、私が勇気を頂いています。ここに来ると様々なおじさん達に会うことができる、それが今の私の一番の原動力になっています。



2000年からボランティアとして参加して頂いている辻崎網江さん



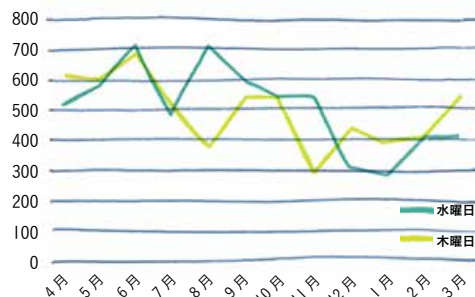
提供いただいたドライカレー



食事の提供のほか、声かけも行います



【2016年度 炊き出し・アウトリーチ月次配食数】

2016年度
炊き出し・アウトリーチ 活動実績

■水曜炊き出し・アウトリーチ
年間延べ配食数 6,188食
(年間実施回数47回)

■木曜炊き出し・アウトリーチ
年間延べ配食数 6,040食
(年間実施回数46回)

【木曜 炊き出し・アウトリーチ】

木曜日の炊き出し・アウトリーチでは、第一・第三木曜日はおにぎり、第二・第四木曜日はコロッケ弁当を提供しています。さらに、冬には温かいお味噌汁を、夏には冷たいそうめんを一緒に提供しています。また、木曜日の炊き出しにあたって、カトリック三軒茶屋教会 山谷おにぎり奉仕団様よりおにぎりをご提供頂いております。



炊き出しのおにぎりはおじさんたちが握ります



テント村への食事の提供

【ボランティアからのコメント】

私は山友会のボランティアに参加して約3年になります。普段は児童福祉施設で働いていますが、木曜日に炊き出しにボランティアとして参加しています。

午前中におにぎりやお弁当等アウトリーチで配る食べ物を作り、午後はアウトリーチに出かけ、配食後は、川沿いにあるテント小屋を回る。山友会のボランティアには元々路上生活を送っていた方(私は『おじさん』と呼んでいます)が多く参加しており、『おじさん』と他愛のない会話をするのも楽しみの一つです。『おじさん』が元気にしているか、気になって山友会に足を運ぶ日もあります。

学生時代に山友会のアウトリーチを教えてもらい、社会人となった今でも参加しています。今後も参加し、『おじさん』と語りあう日々を続けていけたら、と思っています。



第二木曜日の炊き出し・アウトリーチにボランティアとして参加されている神山賢さん

目次
代表挨拶
理事長挨拶
理事長挨拶
【特選】 若支援事業
【活動報告】 クリニック
【活動報告】 相談室
【活動報告】 炊き出し アウトリーチ
【活動報告】 食堂
【活動報告】 山友荘
【活動報告】 居場所・生き がいがつく プロジェクト
【活動報告】 山谷・アート・ プロジェクト
会計報告
【特選】 山谷・ステイ ツアー
イベント・ 講演等報告
メディア 掲載情報
ご支援の お願い

【活動報告】

食堂



クリニックの患者さんや相談室の相談者の方など、
山友会を訪れた人々に無償で昼食の提供を行っています。

■活動内容

2016年度では、12,878名の方に昼食を提供することができました。提供数は、平成27年度に比べて1,267名増加しました。

食堂では、足が悪いなどの理由から階段を使って2階にある食堂へ来られない方のために、持ち帰り用のお弁当も作っています。ほかに、炊き出しで配られるお味噌汁やお蕎麦の準備、おにぎり用の炊飯なども行っています。

食堂になくてはならないものとして、ボランティアの方々の存在があります。食堂はボランティアさんたちの優しさと力に毎日支えられています。ボランティアさんの中には料理上手なおじさんたちもおり、みんなで助け合いながら運営しています。とりわけ、炊き出しの準備はおじさんたちが中心となって行われ、1度の炊き出しで多いときは45キロものお米を炊いています。



【ボランティアからのコメント】

食堂で食事を作るお手伝いをするときは、日本語や料理の仕方を勉強することができて楽しいです。食堂を毎日利用する人の顔を覚えて、お話しするのも好きです。時には、少ししか食べなかった人が心配になったりもします。みんな優しい方で、挨拶したり、あたたかく話しかけたりしてくれるとき、一人ひとりに尊厳があり、平等だと感じます。これから山友会の食堂でボランティアをする機会がある方は、ぜひおじさんとの会話を大切にしてください。

ファビオラ・ゴメスさん
チリからのボランティアで、
ほぼ毎日、山友会に通って食
堂や相談室のお手伝いをして
くださっています。



【利用している方からのコメント】

- ・うまい！美味しい！（そう言わないとね！）
- ・食堂で食べるのは美味しい
- ・作りたてだから美味しい
- ・薄味だから身体にいい
- ・好きなものばかり買うと偏るけど
ここの食事はバランスがいい
- ・スタッフの人の笑顔がいい
- ・仲のいい人とおしゃべりしながら食べる
ご飯は美味しい
- ・たまにはステーキを出して！（笑）



食堂スタッフとボランティアのみなさん

【2016年度を振り返って】

食堂でおじさん達が食べている姿に、
何故かこちらも満たされます。たいした話もしないのに、ここに通われる方は私達の家族のようになります。何年も遠慮して黙って食べていたおじさんが、1年ほど前から、自分の好みを表明するようになりました。先日、少食で野菜嫌い、醤油の大好きだったおじさんが亡くなり、私達も特別に配慮していただけに寂しくなりました。食堂での出会いを通して、お互いがかけがえのない存在になる不思議さを感じる今日この頃です。

（食堂担当 和田有粧）



2016年度 食堂 活動実績

■年間延べ利用者数 12,878名
（前年比 1,267名増）

※ボランティアの方、実習中の学生などを除く
月平均：延べ1073名（前年比 月105.6名増）

■年間活動日数：259日（前年比 12日増）

私が山友会の食堂に参加し始めてから1年と10か月が過ぎました。毎日お会いしている方のお顔、その方々がそれぞれちょうどいいと感じるごはんの量などを自然と覚え、少しずつ親しい関係になってきた気がして嬉しい限りです。2月に開催した山友会の活動報告会では、「おなかも、心も、いっぱいに。」という食堂のテーマを発表しました。皆で食事をして気持ちがだんだんと緩んだら、少しずつ心も満たされるのではないのでしょうか。そんな、「心もいっぱいにする場を目指しています。」

（食堂担当 伊藤圭子）



目次
代表挨拶
理事長挨拶
【特選】 若支援事業
【活動報告】 クリニック
【活動報告】 相談室
【活動報告】 炊き出し アウトリーチ
【活動報告】 食堂
【活動報告】 山友荘
【活動報告】 居場所・生き がいがつく プロジェクト
【活動報告】 山谷・アート・ プロジェクト
会計報告
【特選】 山谷・ステイ ツアー
イベント・ 講演等報告
メディア 掲載情報
ご支援の お願い

【活動報告】

山友荘



山友荘は、元ホームレスの方などで、介護が必要であることや、病気や障害のため一人で暮らすことが難しくなった方のための住まいを提供しています。スタッフが常駐し、生活の見守りや支援を行うほか、食事の提供、医療機関・介護事業所などの連絡調整を行うことで、入所されている方々の暮らしを支えています。

■活動内容

山友荘は2017年4月で8年目を迎えます。この一年は、開所当時より入所されている方が高齢となり体調を崩しやすくなったことで、それまで必要としていなかった訪問看護や訪問介護の利用を受け入れる姿が見られました。また、入居者の体調が急変した際の対応もとても多い一年でした。

今年度入居された60代の男性Aさんは、10年以上もの長い間、隅田川の河川敷でテント暮らしをされていて、毎週水曜日のアウトリーチで訪問を続けていた方でした。両目に白内障を患っており、アウトリーチのスタッフから受診を勧められていましたが、拒み続けそのうち両目ともに視力をほとんど失うほどに病気が進行してしまいました。昨年の夏、ようやくAさんは病院へ行くことを決心し、生活保護を受給するようになりました。両目の見えづらいAさんは一人で生活することが難しく、山友荘へ入居することになったのです。

受診した医療機関の眼科医からは「なぜここまで放っておいたのだ」と言われ



山友荘スタッフのみんな



笑いのたえない山友荘



入居者さんとヘルパーさんも家族のようです

【2016年度 山友荘活動報告】

延べ入居者数	21
◆新規入居者数	1
退院先なし	1
◆シェルター利用者	1
延べ退去者数	0

るほどに目の状態は悪かったのですが、難しい手術が無事に成功し、両目とも視力が回復できました。現在も通院で治療を続けており、通院の際には山友荘スタッフが治療内容などの説明を一緒に聞き、必要に応じて服薬管理などの支援も行っています。

Aさんの希望で、病院への行き帰りを片道30分ほどかけて歩くのですが、入居したばかりの頃は会話がほとんどなく、こちらから話しかけるのがためられるほどに陰しく不安に満ちた表情をしていたのが印象に残っています。そんなAさんも、アウトリーチで関わっていたボランティアさんや、相談室の相談員が訪問し続けてくれているうちに、表情だけでなく態度までもが徐々に明るくなっていったのです。今となっては、私たちスタッフに優しい表情で挨拶をしてくれたり、他の入居者と冗談を言い合ったり、昔行かれた隅田川の花火大会のことなどを楽しそうに話してくれたりしています。先日、いつものように一緒に歩いて病院に向かう道中、Aさんは「目が見えない



時は笑えなかったよ」とつぶやきました。孤独なテント生活を送らざるを得ない状況で視力までも失っていく不安感は、彼自身の心を閉ざし、笑顔までもが失われてしまったのかもしれませんが。これからも、Aさんのように辛い環境で生活を送らざるを得ない人たちが、笑顔を取り戻してくださるような支援を続けていきたいと思っています。



【活動報告】

居場所・生きがいきづくり
プロジェクト

ホームレス状態にある方や地域で暮らす元ホームレスの方などが、地域の中で孤立せずに自分の存在を認められる居場所と、自身の生きがいとなるような社会的な役割を手にするを目的に、そうした方々が主体的かつ持続的に参加できる居場所づくりや生きがいきづくりをサポートしています。

■活動内容

現在、居場所・生きがいきづくりプロジェクトでは、近隣の簡易宿所（ドヤ）の清掃、DVD鑑賞会、石けん作り、人形作り、菜園の5つの活動が実施されています。これらは、1か月に1度行われている「生きがいきづくりミーティング」でプロジェクトのメンバーがアイデアを出し合い、自分たちで取り組んできたもので、メンバーそれぞれが自分に合った活動を担当しています。ミーティングでは、取り組んでいる活動についての近況を話したり、情報交換をしたり、これからやってみたいことなどが話し合われたりしています。



紙粘土とビー玉で卵型のかたまりを作ります
乾いたら、各々のセンスで絵をつけます



石けんをすりおろし、お湯でこねた後にクッキー型で成型します

【プロジェクト協力者からのコメント】

今年度1年間は、新しいメンバーが加わったことで、意欲的にも紆余曲折ながらも軌道に乗った活動が展開されました。新しいメンバーもプロジェクトのメンバーに受け入れられている様子を感じられるようになってきています。メンバーはそれぞれ、日々忙しく自分の役目や立ち位置を確認している方、他の人と一緒にやろうと声をかける方、黙々と自分の役割を全うしようと励む方など、それぞれが多様な役割を担っています。個々がプロジェクトとつながりを持ち続けている姿からは、彼らが市民の一人としてプロジェクトの仕事や役目へ親しみを感じている様子も見られます。きっと「自分がここにいてもいい」と思える空間と仲間が存在が、このプロジェクトの原動力と成っているのでしょう。

上智大学総合人間科学部看護学科
准教授 岡本菜穂子さん



山友会の屋上でプランターを並べて、野菜を育てています
収穫したら食堂で調理！

2016年度 居場所・生きがいきづくりプロジェクト
活動実績

生きがいきづくりミーティング実施回数:12回
生きがいきづくり活動実施回数:121回
年間延べ参加人数:494名



【2016年度を振り返って】

本プロジェクトは、2016年4月から本格的に始動し、この4月で1年が経ちました。現在行われている活動のうち、石けん作りと人形作りについては、プロジェクトのメンバーが「初めての人も簡単にできるから」と工夫したものです。出来上がった石けんと人形はセットにして、メンバーから見学者の方などへプレゼントしています。居場所・生きがいきづくりプロジェクトでは、ミーティングに集まったメンバーが話し合い、みんなで決めたことをやることにしています。昨今、「場」や「コミュニティ」という言葉が、孤独・孤立といった問題を



DVD鑑賞会の様子
凍える寒さや、うだる暑さもしのけて、ゆっくり過ごせます

解決するための重要なキーワードとなっています。一時的でなく持続するつながりがつくられるためには、誰かに強制されるのではなく、自分が自分を動かしているという自発性が不可欠であると感じています。
(居場所・生きがいきづくりプロジェクト 担当 伊藤圭子)



近隣の簡易宿所（ドヤ）の清掃。レギュラーメンバーのおふたりです



山谷・アート・プロジェクト



©matsuno

■活動内容

「表現することの楽しさを知ってほしい」
山谷・アート・プロジェクトは2015年10月に発足しました。プロジェクトの一つとして写真部が発足し、山谷や路上で暮らしているおじさんたちにカメラを託し、自身の身の回りのこと、そして暮らしている街を、現在写真で記録して貰っています。

撮影をお願いしていることはシンプルです。「いつも見ている風景、友達と過ごす楽しい時、一人でいて退屈な時、暮らしているドヤの部屋、寝ているテントやそこにある自分の大切な物など、自分の周りにある身近な事を、カメラで記録して下さい」と伝えます。

はじめは写真を撮ることに慣れていなかったおじさんたちも、今では楽しんで撮影を続けています。写真で自分を表現することができる「楽しみ」を知り、そしてアート活動を通じて誰かに認められるというような社会との関係性が感じられるようになりました。

今後も写真を、発行物や写真展、ブログなどで発表していきたいと思っています。どうかご支援を、よろしくお願いいたします。

<山谷・アート・プロジェクト担当

丹野／高木／後藤>



©hatayama



©fukuda



©ohshiba



©takashima



©yamada

目次
代表挨拶
理事長挨拶
【特選】 若支援事業
【活動報告】 クリニック
【活動報告】 相談室
【活動報告】 炊き出し アウトリーチ
【活動報告】 食堂
【活動報告】 山友荘
【活動報告】 居場所・生き プロジェクト
【活動報告】 山谷・アート・ プロジェクト
【特選】 会計報告
【特選】 山谷ステディ ツアー
イベント・ 講演等報告
メディア 掲載情報
ご支援の お願い

会計報告

【特定非営利活動に係る事業会計収支計算書】

[税込] (単位:円)

認定 NPO 山友会			自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 29 年 3 月 31 日		
《 経 常 収 支 の 部 》					
【経常収支の部】					
【経常収入】					
会費収入		120,000			
事業収入（山友荘）		36,836,050			
寄付金収入		24,908,058			
受取利息収入		3,658,500			
雑 収 入		273,168			
経常収入 計		2,737,204		68,532,980	
【事業費】					
保健・医療援助事業		4,006,667			
宿泊サービス（近隣館）事業		530,100			
宿泊サービス（山友荘）事業		33,639,160			
生活相談・支援事業		10,948,632			
給食サービス事業		4,438,074			
生きがい・居場所作り事業		377,937			
路上生活者巡回相談事業		210,862			
当期事業費 計		54,151,432			
合 計		54,151,432			
事業費 計				54,151,432	
【管理費】					
給料 手当		2,674,291			
アルバイト給料		1,511,375			
法定福利費		4,482,040			
福利厚生費		78,882			
通 信 費		1,228,078			
荷造 運賃		5,308			
旅費交通費		176,560			
通勤交通費		158,140			
広告宣伝費		416,450			
会 議 費		307,992			
事務用消耗品費		792,568			
備品消耗品費		94,969			
新聞図書費		44,400			
印刷 経費		297,565			

修 繕 費	352,160	
研 修 費	1,082,924	
車両燃料費	15,100	
保 險 料	454,139	
租税 公課	261,621	
諸 会 費	17,500	
慶 弔 費	2,278	
リース 料	401,436	
支払手数料	677,081	
減価償却費	2,998,613	
雑 費	338,259	
管理費 計		18,869,729
経常収支差額		△ 4,488,181
【その他資金収支の部】		
【その他資金収入】		
その他資金収入 計		0
【その他資金支出】		
その他資金支出 計		0
当期収支差額		△ 4,488,181
前期繰越収支差額		67,993,756
次期繰越収支差額		63,505,575
《 正 味 財 産 増 減 の 部 》		
【正味財産増加の部】		
正味財産増加の部 計		0
【正味財産減少の部】		
当期収支差額	4,488,181	
正味財産減少の部 計		4,488,181
当期正味財産増加額		△ 4,488,181
前期繰越正味財産額		67,993,756
当期正味財産合計		63,505,575

目次
代表挨拶
理事長挨拶
【特選】 若支援事業
【活動報告】 クリニック
【活動報告】 相談室
【活動報告】 炊き出し アウトリーチ
【活動報告】 食堂
【活動報告】 山友荘
【活動報告】 居場所・生き プロジェクト
【活動報告】 山谷・アート・ プロジェクト
【特選】 会計報告
【特選】 山谷ステディ ツアー
イベント・ 講演等報告
メディア 掲載情報
ご支援の お願い

【特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表】

【税込】（単位：円）

認定 NPO 山友会

平成 29 年 3 月 31 日 現在

《 資 産 の 部 》	
科 目	金 額
【流動資産】	
（現金・預金）	
現 金	9,530
みずほ普通	31,819,629
ゆうちょ銀行	12,228,380
預 け 金	44,057,539
現金・預金 計	44,057,539
流動資産 合計	45,598,217
【固定資産】	
（有形固定資産）	
土 地	4,000,000
建 物	8,775,097
建物附属設備	6,593,505
構 築 物	1,116,000
車両運搬具	1
器具 備品	3
有形固定資産 計	20,484,606
（投資その他の資産）	
敷 金	100,000
投資その他の資産 計	100,000
固定資産合計	20,584,606
資産の部 合計	64,642,145

《 負 債 ・ 正 味 財 産 の 部 》	
科 目	金 額
【流動負債】	
預 り 金	1,136,570
流動負債 計	1,136,570
負債の部 合計	1,136,570
《 正 味 財 産 の 部 》	
【正味財産】	
正味 財産	63,505,575
（うち当期正味財産増加額）	△ 4,488,181
正味財産 計	63,505,575
正味財産の部 合計	63,505,575

【特定非営利活動に係る事業会計財産目録】

【税込】（単位：円）

認定 NPO 山友会

平成 29 年 3 月 31 日 現在

《 資 産 の 部 》		
【流動資産】		
（現金・預金）		
現 金	9,530	
みずほ普通	31,819,629	
郵便 貯金	12,228,380	
預 け 金	44,057,539	
現金・預金 計	45,598,217	
流動資産合計		44,057,539
【固定資産】		
（有形固定資産）		
土 地	4,000,000	
建 物	8,775,097	
建物附属設備	6,593,505	
構 築 物	1,116,000	
車両運搬具	1	
器具 備品	3	
有形固定資産 計	20,484,606	
（投資その他の資産）		
敷 金	100,000	
投資その他の資産 計	100,000	
固定資産合計		20,584,606
資産の部 合計		64,642,145

《 負 債 の 部 》		
【流動負債】		
預 り 金	1,136,570	
流動負債 計		1,136,570
負債の部 合計		1,136,570
正味財産		63,505,575

【注記表】

認定 NPO 山友会

平成 29 年 3 月 31 日 現在

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】	
(1). 固定資産の減価償却の方法	
有形固定資産は、旧定額法及び定額法による直接減額方式を採用している。	
有形固定資産の減価償却累計額	24,591,042 円
(2) 次期繰越収支差額の内容は次の通りである。	
現金	9,530 円
預金及び預け金	44,048,009 円
有形固定資産	20,484,606 円
敷金	100,000 円
預り金	▼ 1,136,570 円
差引計	63,505,575 円

【監査報告書】

特定非営利活動法人 山友会
理事長 大庭 卓郎 様
監 査 報 告 書
平成 29 年 3 月 31 日
〇 特定非営利活動法人 山友会の平成 28 年度の経理計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書、役員名簿、社員名簿について、監査した結果、正確かつ適正であることを確認いたしましたのでここに報告申し上げます。
特定非営利活動法人 山友会 監事 河津 達彦

イベント・講演等報告



2016 年山友会活動報告会の様子

ホームレス問題や山谷地域で起きている社会的孤立を背景にした問題を根本的に解決していくためには、多くの方々のご協力が欠かせません。ホームレス問題や山谷地域の現状、そして山友会の取り組みを普及し、問題解決に向けた参加を促進するために様々なイベントや講演活動を行っています。

時期	イベント
2016 年 5 月	・ 第 1 回 山谷地域の介護・看護のお仕事説明会 (ケアサービス福寿草・浅草あおばケアサービス・NPO 友愛会と共催) ・ 東海大学 健康科学部 看護学科にて講演 (理事 油井) 「社会の変化に伴う地域の健康問題と支援の実践」
2016 年 6 月	・ 墨田区教育委員会 平成 28 年度 第 1 回人権教育推進連絡協議会にて講演 (理事 油井) 「路上生活者支援のさまざまなかたち」
2016 年 7 月	・ 法政大学大学院 連帯社会インスティテュートにて講義 (理事 油井) 「山谷に地域ケアの連帯を創る」
2016 年 8 月	・ ピースポート 地球大学特別プログラム「人間の安全保障へ 課題の解決策を探る」にて 講義 (理事 油井)
2016 年 9 月	・ 第二回 山谷地域の介護・看護のお仕事説明会 (ケアサービス福寿草・浅草あおばケアサービス・NPO 友愛会と共催)
2016 年 10 月	・ カトリック三軒茶屋教会バザーに出店
2016 年 11 月	・ きむらとしろうじんじん 野点 バラエティロード山谷 2016 に 協力・出店 ・ 東京アメリカンクラブ women's club チャリティドライブ ・ 浅草寺福祉会館研修にて講義 (理事 油井、居場所・生きがづくりプロジェクト 伊藤) ・ 一橋大学大学院社会学研究科 特別講義・地域社会研究会にて講義 (理事 油井) 「ホームレス問題の現在とその支援の在り方について」 ※ 1
2016 年 12 月	・ タケダ・いのちとくらし再生プログラム (第 2 期) 組織基盤強化事業「信頼される組織を 目指す NPO のリスクマネジメント研修」(日本 NPO センター) にて事例報告 (理事 油井) ・ 国際シンポジウム 出所者支援の都市間比較 (大阪市立大学都市研究プラザ主催) パネリストとして参加 (理事 油井) ・ 墨田区立両国中学校 平成 28 年度人権講演会にて講演 (理事 油井) 「路上生活者の実態」
2017 年 2 月	・ キャラガー大司教との意見交換会 (理事 油井、クリニック看護師 石田) ・ 2016 年 活動報告会 開催
2017 年 3 月	・ 地域ケア連携をすすめる会 第 6 回シンポジウム 「地域ケアの多様な担い手-地域の人による、 地域の人へのケア-」事務局団体として運営協力 ・ シンポジウム「ホームレス問題から日本の未来を 考える-私がホームレス支援に携わる理由-」開催 (認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金 協力) ※ 2

※ 1:「きむらとしろうじんじん 野点 バラエティロード山谷 2016」のチラシ

※ 2 シンポジウム「ホームレス問題から日本の未来を考える-私がホームレス支援に携わる理由-」パネルディスカッションの様子

メディア掲載情報



事務局スタッフ

今年度も、マスメディアを始めさまざまなところから取材のご依頼を頂き、山友会の活動などについて記事に頂きました。多くの方々からのご共感とご支援があったからこそ、社会的にも関心を寄せて頂いたものだと思っております。今年度公開されたメディア掲載情報を以下にご紹介させていただきます。

2016 年 3 月 26 日

＜特集＞終のすみか求め 新貧乏物語
第 2 部・老いて追われる (中日新聞)



2016 年 5 月 9 日

東京の記憶：山谷 今日の職 得て生き抜く
どん底知る男たちに絆 (読売新聞 都民版)

※代表 ルボ・ジャンのライフヒストリーとコメント掲載



2016 年 6 月 1 日

ホームレス支援、撤退相次ぐ
国の補助減で現場はいま (朝日新聞)

※理事 後藤広史 (日本大学 文理学部 准教授) のコメント
掲載

2016 年 8 月 23 日

【高齢者と貧困】簡易宿泊所に暮らす生活保護
受給者の半数以上が身寄りのない高齢者。
(yahoo! ニュース)

2016 年 8 月 28 日

無料低額宿泊所の 4 割、個室の面積基準下回る
国が調査 (朝日新聞)

2016 年 9 月 19 日

山谷を歩けば
貧困が分かる
無縁仏の墓・
無料診療所巡る
ツアー (東京新聞)



2016 年 11 月 5 日

【グローバルスケッチ】
634m の超高層ビルの
裏に…酒瓶持ち、
布団背負った
ホームレスたち
(東亜新報)



2016 年 12 月 17 日

「労働者の町」のいま。山谷スタディツアー
(TBSラジオ 堀尾正明+PLUS! “人権TODAY”)
※山谷スタディツアーの紹介

2016 年 12 月 31 日

【時時刻刻】無縁遺骨、あふれる納骨堂 保管
見直す自治体、やむなく合葬も (朝日新聞)
※理事 油井和徳のコメント掲載

ご支援のお願い

ホームレス状態を余儀なくされた人々の存在は、互いに手を差し伸べあうことのできる人と人とのつながりがこの社会に失われつつあることを意味しているのかもしれません。ホームレス状態にある人たちが、**ひとりではないと感じ、笑顔を取り戻すために。みなさんのやさしさを私たちに託してもらえませんか。**

【1回のご支援でできること】



3,000 円のご支援で



5 人の方に医薬品を処方することができます。



5,000 円のご支援で、



175 人の方に
おにぎりをお渡し
することができます。



10,000 円のご支援で、



3 日分の宿泊費と食費を
お渡しすることが
できます。

【継続的なご支援でできること】



月 3,000 円のご支援で、



15 回の居場所・生きがいづくり活動を継続的にサポートすることができます。



月 5,000 円のご支援で、



1 年間 お墓を維持し、
3 人の方のご遺骨をお納め
することができます。



月 10,000 円のご支援で、



365 日、2 人の方の安心
できる暮らしを支え続ける
ことができます。

【ご支援の方法】

＜マンスリーサポーターに参加する（毎月の寄付）＞

お申込み方法などの詳細は山友会ホームページ (<http://sanyukai.or.jp/monthlysupporter.html>) をご覧ください、山友会事務局までお問合せください。

＜寄付をする＞

ーご寄付の方法

- ・郵便振替をご利用の場合
東京 00100 - 2 - 158990 加入者名：山友会
- ・銀行振込をご利用の場合
みずほ銀行 三ノ輪支店 普通：1652317 名義：特定非営利活動法人 山友会
- ・クレジットカードをご利用の場合
ホームページから、オンライン寄付のクレジット決済システムを利用して
ご寄付頂くことができます。

＜食料など支援物資のご寄贈＞

- ー食 品…米、缶詰、インスタント食品、調味料、味噌、ふりかけ、梅干し、海苔など
※食品は賞味・消費期限内のもの
- ー雑 貨…タオル、石けん、カミソリなどの日用品、靴下、洗剤（洗濯用、食器用）、ティッシュペーパー
- ーその他…未使用切手、書き損じハガキなど

※寄付金受領証の発行は 500 円以上とさせていただきます。恐れ入りますがご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

【ご支援頂いている方からのメッセージ】

「少しでも我々の力で、世の中を良くすることは出来ないだろうか。」という真摯な思いから東京アメリカンクラブ婦人会は日々チャリティ活動を行い、こつこつと基金を集め、なるべく多くの助けを必要とされている方々の元へ確実なサポートが行われる団体様へまとまった寄付を行わせて頂いております。皆様方の献身的な活動には頭が下がるばかりで、なんとか出来る限り多くの支援をさせて頂きたいとの思いから、我々婦人会メンバーは日々様々なチャリティ活動を企画運営しております。我々に出来る支援には限りがございますが、少しでも皆様方のお役に立てるように、メンバー一同願ってやみません。



東京アメリカンクラブ 婦人会
チャリティ委員会
藤田友美 様

※東京アメリカンクラブ 婦人会 チャリティ委員会さまからは活動費用のご支援を頂いております。

※そのほか、

- ・一般財団法人日本メイスン財団さまより山友会クリニック薬品購入費用、シェルター宿泊費用のご支援
 - ・在日米商工会議所さまより活動費用のご支援
- をはじめ多くの団体・個人の方々よりご支援を頂きました。誠に有難うございました。

山友会

NPO
特定非営利活動法人
SANYUKAI



特定非営利活動法人 山友会

〒111-0022

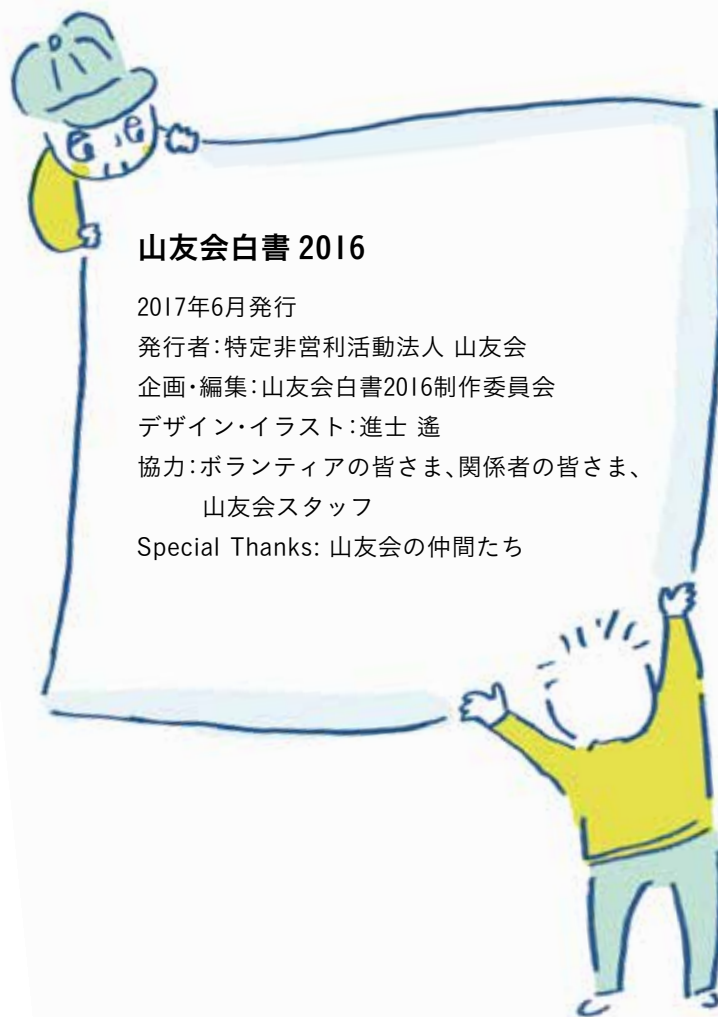
東京都台東区清川 2-32-8

TEL: 03-3874-1269

FAX: 03-3874-1332

MAIL: info@sanyukai.or.jp

ホームページ: <http://sanyukai.or.jp>



山友会白書 2016

2017年6月発行

発行者: 特定非営利活動法人 山友会

企画・編集: 山友会白書2016制作委員会

デザイン・イラスト: 進士 遙

協力: ボランティアの皆さま、関係者の皆さま、
山友会スタッフ

Special Thanks: 山友会の仲間たち



- 営団地下鉄日比谷線「南千住駅」
南口下車徒歩 7 分。
- JR 常磐線「南千住駅」下車
徒歩 10 分
- つくばエクスプレス「南千住駅」
下車徒歩 12 分

改札を出て歩道橋を渡り、泪橋方面に歩く。
明治通りを左折し、一本目の狭い路地を
右折、すぐに左折。
「ホテルニューあずま (HOTEL NEW AZUMA)」
が見えたら右折。